

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月13日
【四半期会計期間】	第11期第3四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	O A T アグリオ株式会社
【英訳名】	OAT Agrio Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡 尚
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田小川町一丁目3番1号
【電話番号】	03-5283-0251（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 重内 俊之
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田小川町一丁目3番1号
【電話番号】	03-5283-0262
【事務連絡者氏名】	取締役 重内 俊之
【縦覧に供する場所】	O A T アグリオ株式会社西日本支店 （大阪市中央区久太郎町三丁目1番29号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第3四半期 連結累計期間	第11期 第3四半期 連結累計期間	第10期
会計期間	自2019年1月1日 至2019年9月30日	自2020年1月1日 至2020年9月30日	自2019年1月1日 至2019年12月31日
売上高 (百万円)	16,999	15,476	21,909
経常利益 (百万円)	1,038	1,334	837
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	580	767	4
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	298	744	446
純資産額 (百万円)	6,977	7,320	6,807
総資産額 (百万円)	28,990	29,339	29,724
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	107.22	141.73	0.87
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	21.5	22.4	20.5

回次	第10期 第3四半期 連結会計期間	第11期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	29.76	5.38

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第10期第3四半期連結累計期間の関連する主要な経営指標等については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額を記載しています。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大の収束目途が立たない状況が続いており、今後の経過によっては、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。特にオランダのBlue Wave Holding B.V.の主力市場である花卉市場において、イベントの中止による花卉の需要低下や流通網の停滞などにより、同社の花卉資材の需要減少などが同社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。感染拡大による事業への影響については、今後の推移状況を注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第3四半期連結累計期間に関連する指標については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しは反映された後の金額に基づいて記載しています。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2020年1月1日～2020年9月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による世界的な経済活動の停滞により大幅に悪化しました。緊急事態宣言の解除後、経済活動は緩やかに再開されましたが、7月には感染拡大の第2波の兆候が表れるなど、いまだ収束の目途は立たずに不透明な状況が続いております。

こうした状況の下で、当社は丸善薬品産業株式会社との業務提携により、生産者重視の営業体制の構築に取り組んでおります。また、国内では葉面散布肥料のリニューアル、新規液体肥料の発売、海外では主力3剤（ダニサラバ・カリグリーン・アトニック）に注力して活動を進めております。さらに、研究開発では新製品上市、既存製品改良改善により市場の拡大を図っております。

このような経営環境の下で、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は、国内では、農薬競合メーカーの影響を受けたことや、清算手続き中である連結子会社の活動縮小により販売が減少しました。また海外では、オランダのBlue Wave Holding B.V.が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、花卉の需要低下の影響を受けて販売が減少しました。以上の要因により前年同四半期比で減少しました。一方、営業利益については、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴う一過性のたな卸資産評価額の費用負担が解消したことにより前年同四半期比で売上原価が減少したこと、および販売管理費が減少した結果、前年同四半期比で増加しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は154億76百万円（前年同四半期比15億23百万円減少、同9.0%減）、販売費及び一般管理費は58億52百万円（前年同四半期比2億12百万円減少、同3.5%減）となり、営業利益は14億86百万円（前年同四半期比1億99百万円増加、同15.5%増）、経常利益は13億34百万円（前年同四半期比2億95百万円増加、同28.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億67百万円（前年同四半期比1億86百万円増加、同32.2%増）となりました。

なお、当社グループの第1四半期及び第2四半期連結会計期間の経営成績は、国内農薬事業を中心に需要盛期に備えた出荷が集中するため、売上高及び営業利益等が他の四半期会計期間と比較して多額となる傾向にあります。

当社グループはアグリテクノ事業の単一セグメントであります。各分野別の業績につきましては以下のとおりであります。

農薬分野においては、国内農薬市場では、当社が注力している植物油由来の殺ダニ剤「サフオイル」の売上高が増加しましたが、競合農薬メーカーの新規殺虫剤等の影響を受けて殺虫剤「ハチハチ」、「オリオン」、殺ダニ剤「ダニサラバ」などの売上高が減少いたしました。また、海外農薬市場では、販売戦略の見直しに伴い殺虫剤「オンコル」の売上高が減少しました。これらの結果、農薬分野全体の売上高は75億26百万円（前年同四半期比9億94百万円減少、同11.7%減）となりました。

肥料・バイオスティミュラント分野においては、LIDA Plant Research,S.L.の売上高がグローバルに伸長しましたが、オランダのBlue Wave Holding B.V.の売上高が減少したこと、および「アトニック」の販売が低調に推移したことにより、肥料・バイオスティミュラント分野全体の売上高は79億50百万円（前年同四半期比5億28百万円減少、同6.2%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3億85百万円減少し、293億39百万円となりました。これはのれんの減少3億47百万円、現金及び預金の増加11億31百万円、商品及び製品の減少5億8百万円、受取手形及び売掛金の減少3億97百万円が主な原因です。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ8億98百万円減少し、220億18百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少9億26百万円、短期借入金の増加98百万円、長期借入金の増加70百万円が主な原因です。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ5億12百万円増加し、73億20百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上7億67百万円、剰余金の配当2億16百万円、為替換算調整勘定の減少1億27百万円が主な原因です。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は12億50百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに締結した契約等は、次のとおりです。

契約会社名	契約相手先	相手先の所在地	契約内容
Blue Wave Holding B.V.	ABN AMRO Bank N.V.	オランダ	既存借入金の統合およびオランダ政府保証付き新規借入金の実行 (1) 借換え前の借入金額 ファシリティA1 4,141千ユーロ ファシリティB 12,000千ユーロ ファシリティC 2,840千ユーロ (2) 既存借入金の統合および新規借入れ後の借入金額 既存借入金の統合 ファシリティA1 18,556千ユーロ オランダ政府保証付き借入金 ファシリティG0-C 3,000千ユーロ

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,000,000
計	18,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,536,000	5,536,000	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	5,536,000	5,536,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	5,536,000	-	461	-	504

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 124,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,409,500	54,095	-
単元未満株式	普通株式 2,500	-	-
発行済株式総数	5,536,000	-	-
総株主の議決権	-	54,095	-

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
O A T アグリオ株式会社	東京都千代田区神田小川町一丁目3番1号	124,000	-	124,000	2.24
計	-	124,000	-	124,000	2.24

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第10期連結会計年度 有限責任監査法人トーマツ

第11期第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間 有限責任 あずさ監査法人

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,414	4,545
受取手形及び売掛金	5,084	4,686
商品及び製品	3,041	2,533
仕掛品	490	477
原材料及び貯蔵品	1,647	1,558
その他	784	964
貸倒引当金	26	39
流動資産合計	14,436	14,726
固定資産		
有形固定資産	4,047	3,741
無形固定資産		
のれん	6,848	6,500
顧客関係資産	2,878	2,769
その他	417	388
無形固定資産合計	10,144	9,658
投資その他の資産	1,095	1,212
固定資産合計	15,288	14,613
資産合計	29,724	29,339
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,418	1,491
短期借入金	6,991	7,089
未払法人税等	297	308
賞与引当金	30	119
売上割戻引当金	38	149
返品調整引当金	17	16
損害賠償引当金	137	48
その他	1,966	1,756
流動負債合計	11,899	10,981
固定負債		
長期借入金	9,150	9,220
退職給付に係る負債	244	206
繰延税金負債	942	984
その他	681	625
固定負債合計	11,017	11,037
負債合計	22,917	22,018

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	461	461
資本剰余金	2,410	2,410
利益剰余金	4,059	4,609
自己株式	162	162
株主資本合計	6,769	7,319
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6	29
為替換算調整勘定	671	799
退職給付に係る調整累計額	19	7
その他の包括利益累計額合計	685	762
非支配株主持分	724	763
純資産合計	6,807	7,320
負債純資産合計	29,724	29,339

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	16,999	15,476
売上原価	9,647	8,136
売上総利益	7,352	7,339
販売費及び一般管理費	6,065	5,852
営業利益	1,287	1,486
営業外収益		
受取利息	14	12
受取配当金	6	8
受取技術料	42	-
持分法による投資利益	10	12
その他	19	22
営業外収益合計	94	55
営業外費用		
支払利息	194	155
支払手数料	76	0
為替差損	41	41
その他	30	10
営業外費用合計	342	208
経常利益	1,038	1,334
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	1	2
関係会社株式評価損	15	-
減損損失	-	12
子会社清算損	-	8
特別損失合計	16	23
税金等調整前四半期純利益	1,022	1,312
法人税、住民税及び事業税	654	547
法人税等調整額	245	70
法人税等合計	408	476
四半期純利益	613	835
非支配株主に帰属する四半期純利益	33	68
親会社株主に帰属する四半期純利益	580	767

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	613	835
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	23
為替換算調整勘定	940	141
退職給付に係る調整額	1	27
その他の包括利益合計	912	90
四半期包括利益	298	744
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	291	690
非支配株主に係る四半期包括利益	7	54

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等についての不確定要素が多いものの、当社グループでは入手可能な情報等を踏まえ、一定期間にわたり影響が継続すると仮定し、固定資産の評価等の会計上の見積りを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形割引高

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
受取手形割引高	23百万円	16百万円

(四半期連結損益計算書関係)

当社グループが販売する製品は、農繁期に備え春季に出荷が集中する傾向にあります。このため第2四半期連結累計期間の売上高は第3四半期以降の売上高と比べ高くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
減価償却費	692百万円	672百万円
のれんの償却額	431	425

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日 至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年2月25日 取締役会	普通株式	216	40	2018年12月31日	2019年3月6日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日 至2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年2月28日 取締役会	普通株式	216	40	2019年12月31日	2020年3月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、アグリテクノ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	107円22銭	141円73銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	580	767
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	580	767
普通株式の期中平均株式数(株)	5,412,135	5,412,046

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

O A T アグリオ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古 山 和 則 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 越 智 一 成 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているO A T アグリオ株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、O A T アグリオ株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の2019年12月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2019年11月14日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2020年3月27日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。